

住宅・建築によるSDGsの実現に向けて

持続可能性の主な構成3領域である環境・社会・経済の
＜トリプル・ボトムライン (Triple Bottom Line)＞

と

その時間的実行概念の2方向プロセスである
＜フォーキャスティング (Forecasting)＞
＜バックキャスティング (Backcasting)＞
を通して

岩村 和夫, JIA, UIA

東京都市大学 名誉教授
香港珠海学院 客員教授
(株)岩村アトリエ 代表取締役

住宅・建築によるSDGsの実現に向けて

1. はじめに

「国連 17 の SDGs」は、2015 年に国連が発展的に掲げた野心的かつ崇高な達成目標の声明である。そのいくつかは建築環境のデザインと直接的に関連している。また、その他は住宅・建築やランドスケープのハードウェアから間接的な影響を受ける程度の場合もある。



いずれにしても、SDGs は極めて幅広い人間の生活領域をカバーしており、その声明の内容は必然的に一般的かつ曖昧である。それ故に、建築家はどのような計画をしようが、多くの場合一つか二つ、あるいはそれ以上の目標を満たし得る解釈を見出すことができる。

通常、ある目的のための一連の達成基準が曖昧にすぎると、それを満たすことは一見容易に思える。その場合、目的の本質から外れた外面的なブランド化に傾注されがちとなる恐れさえある。しかし、SDGs は人類が直面する重大な課題に取り組み、我々がデザインの職能を通して前向きな結果や効果をもたらす、一連の重要な価値観を指し示している。

その為には、達成すべき持続可能性をめぐる目標の深い理解と、それぞれの目標の真に重要なことを成し遂げよう、我々の職能に関する倫理的・創造的思考が不可欠である。

2. SDGs のキーワード群

以下は近年の JIA における議論から抽出した、SDGs の課題や取り組みを象徴するキーワード群である。

Accessible 誰でも使える、*Adaptive* 適応力のある、*Affordable* 入手しやすい、*Awareness* 気付き、*Biodiverse* 生物多様性、*Clean* 汚染しない、*Collaborative* 共同性、*Connected* 繋がり、*Creative* 創造的、*Cultural* 文化的、*Decent* 品格のある、*Durable* 冗長な、*Economic* 経済的、*Ecological* エコロジカルな、*Environmental* 環境的、*Equitable* 公平な、*Healing* 癒し、*Healthy* 健康な、*Human* 人間的、*Inclusive* 包摂的、*Innovative* 革新的、*Involved* 参加的係り、*Low-cost* ローコストな、*Recycling* リサイクル、*Regenerative* 再生力のある、*Renewable* 再生可能な、*Resilient* 復元性のある、*Safe/Secure* 安全な、*Social-responsible* 社会的責任、*Sustainable* 持続可能な、*Symbiotic* 共生的、*Transparent* 透明性、*Universal* ユニバーサル、*Upcycle* アップサイクル、*Vernacular* バナキュラーな、*Vital* 生命力溢れる、*Well-being* 福祉、*ZEB* ゼロエネルギービルディング、*etc.*

3. SDGs のトリプル・ボトムライン

以上のキーワードをその背景とともに分析すると、右図に示すような1994年に生み出された「持続可能な企業の会計報告書（著者:John Elkington）」における、3つの構成領域<トリプル・ボトムライン（TBL:環境・社会・経済）>に整理することができる。

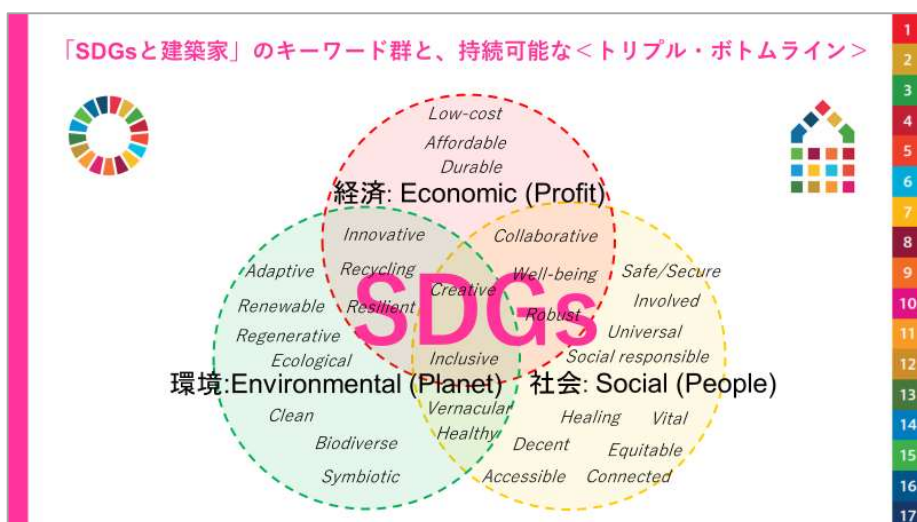


図1 「SDGsと建築家」のための持続可能な<トリプル・ボトムライン> ©K. Iwamura 2020

4. SDGs という社会的価値の変革に至る3本の柱

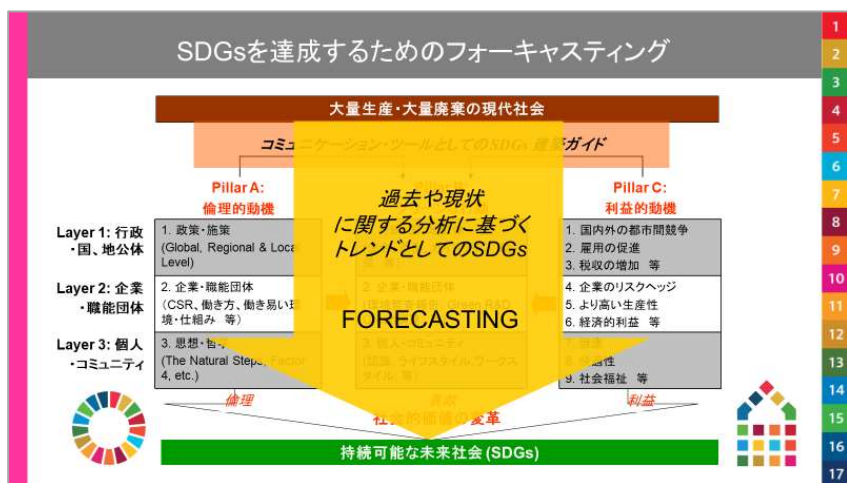
TBLに含まれていない時間的観念を、変革のプロセスとして表現すると、右図のようなステークホルダーの3層 (Layer 1, 2, 3) からなる3本柱 (Pillar A, B, C) の動的構造が見えてくる。

SDGs はそうした次元の概念ともにある。

図 2. SDGs の達成と社会的価値の変革
(©Kazuo IWAMURA 2020)



5. フォーカシングとバックカスティング



そして、このSDGsを達成する時間的観念には2つの方向性がある。

まず1つは「フォーカシング」で、左図のように過去や歴史や現状に関する分析から、トレンドを帰納的に描く未来である。

図 3. フォーカシングによる SDGs の達成
(©Kazuo IWAMURA 2020)



もう一つは、左図のようにまずあるべき未来 (SDGs) の姿を具体的にイメージし、一歩一歩現在に戻りながら目の前の問題や課題を克服し、演繹的に描いたイメージを実現しようとするものである。これを「バックカスティング」と呼ぶ。

図 4. バックカスティングによる SDGs の達成
(©Kazuo IWAMURA 2020)

我々住宅・建築設計者は、計画・設計・デザインの対象が何であれ、常にこの2つの時間的方向性を持った取り組みを生業としている。要は、社会の誰一人として取り残されないように、そうした方法論と達成目標を気づき、認識しているか否かであると思われる。